

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （ 教育学 ）	氏名	呉 形
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当		
論 文 題 目			
中国における大学生の学習行動に関する研究 — 「三本大学」を中心にして—			
論文審査担当者			
主 査	教 授	山 田	浩 之
審査委員	教 授	藤 村	正 司
審査委員	教 授	小 川	佳 万
審査委員	准教授	尾 川	満 宏
〔論文審査の要旨〕			
<p>本研究の目的は学習行動を切り口とし、中国の「三本大学」（中国の呼称であり、ランクの低い大学のことを指す）における大学生の特徴を明らかにすること、および、「三本大学」の役割を検討することである。</p> <p>中国では、4年制の大学のことを「本科」と呼び、もっとも合格ラインが低い大学群が第3グループの「本科」という意味で「三本大学」と呼ばれている。「一本大学」がエリート校である一方で、「三本大学」の社会的地位は低い。しかし、三本大学は必ずしもネガティブな存在ではない。急速な大衆化によって中国の大学には多様化が求められるようになり、三本大学には新たな大学の役割が期待されている。しかし、中国の高等教育研究の大多数はエリート大学を対象とし、威信の低い三本大学はほとんど研究対象とされてこなかった。本研究は等閑視されてきた三本大学に焦点を当て、その社会的役割を明らかにしようとするものである。</p> <p>論文の構成は以下の通りである。</p> <p>「序章 問題の所在」では、先行研究を批判的に検討し、その問題点を明らかにするとともに、本研究の目的を提示した。</p> <p>「第1章 多様化する中国の大学」では、中国での大学の制度的な変化が検討されている。「三本大学」に関する政策を整理することにより、中国における大学の多様化の過程を明らかにし、社会の「三本大学」に対する態度の変容を明らかにした。</p> <p>「第2章 「三本大学」に関する先行研究の射程」では、中国における「三本大学」に関する研究をまとめ、その課題及び本研究の視点を提示した。中国での「三本大学」に関する研究は政策中心であり、大学生の視点による実証的な研究が不十分であることを指摘した。</p> <p>「第3章 研究の枠組みと調査の概要」では研究の枠組みと調査対象校の概要を示した。アンケート調査の内容の概要、調査の方法、および、調査対象者の概要を示した。</p> <p>「第4章 大学生の学習意識と進路意識の現状」では、調査結果の概要を検討するため、遼寧省における大学生の学習に対する意識と進路に対する意識を概観した。その結果、大学生は積極的な学習意識を持っており、就職よりも大学院進学に対する意識が非常に高</p>			

いことを指摘した。

「第5章 「三本大学生」の学習行動」では「三本大学生」の属性を明らかにしたうえで、学習行動の規定要因について検討した。その結果、「三本大学生」は「一本大学生」「二本大学生」と比べれば、より低い社会階層の出身であり、学力も低いことを明らかにした。また、「三本大学生」は従来から言われていた「勉強しない、遊んでばかり」といった「不まじめ」な学生ではなく、向学心に富むことが明らかになった。

「第6章 学習行動と進路意識の関連性」では、「三本大学生」の進路意識を明らかにし、高い学習への意識が進路意識にいかに関与しているのかについて検討した。その結果、自主学習への意識が高いほど就職志向が低くなり、進学志向が高くなることを明らかにした。三本大学の学生は現在の中国の進学熱を背景にし、大学の取り組みからの影響も受ける受動的なものではあるが、大学院への進学意識が非常に高かった。

「終章 結論と課題」では本論文の結果をまとめ、その意義について検討した。

本論文は次の3点で高く評価できる。

第一に、複眼的な視点から現在の中国の高等教育に生じた諸問題を検討したことである。本研究は大学ランクにより、学生の属性、学習に対する意識や進路意識が大きく異なっていることを明らかにした。つまり、高等教育が急激に発展している現在の中国においては、学生の多様化の時代がすでに訪れている。このような背景のもとでは、大学の多様化、さらに、学生の多様化を十分に考慮しなければならない。しかし、先行研究の分析対象はエリート大学に限られており、それ以外の大学は十分に研究されていなかった。

第二に、社会学的な視点から考察することで、客観的な立場から「三本大学生」を捉え直したことである。本研究は、先行研究で提示された一元的、一面的な「三本大学生」像に対し、出身階層、学習行動および、進路意識という様々な角度から「三本大学生」の立体像を描いてきた。それらの作業により、今まで言われてきた「勉強しない、遊んでばかり」という「三本大学生」像とは異なり、「出身階層がより低く、授業への意識が非常に高く、大学院に進学する意識が非常に高い」という多元的な「三本大学生像を提示した。

第三に、中国での「三本大学」の社会的役割を明らかにしたことである。本研究の分析結果から、「三本大学生」は「三本大学」に「高校」のような役割を求めていることが分かった。つまり、生活と教育の両面に渡る、いわゆる「学校化」している大学による指導を受けながら、三本大学の学生には高い学習・授業への意識が形成されるとともに、大学院への進学意欲が強化されている。つまり、大学生、あるいは社会から望まれている「三本大学」の役割は、政府が期待する「応用技術型人材を育成する場」とは異なっていることになる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和4年2月9日